

BIG WOOD.CO



ビッグウッド・ドイツ犬舎 Big wood.co Germany 設立!

ドイツ私記②

数日前、日本から友人である新矢秀明氏が訪問してくれました。私の繁殖犬である「Cistus of Bigwood Co」を連れての渡独で、さっそくランデスジューガーに出場させ結果はSG4席でしたが楽しむ事ができました。

彼の目的は、日本内産犬でドイツSVジューガーにオーナーハンドラーで出場したいという大きな夢を抱えている渡独でした。

ドイツのショー参加スタイルは日本とは少し異なり、トレーナーと、ハンドラー、ならびに繁殖者等でチームを編成し、皆で協力し合いながら個々の愛犬家同士で運営されているケースが多く、他人の犬を預かって訓練からショー出陳までを行ってくれる日本の訓練所スタイルは稀で、その様な協力者を探すのは一苦労でした。

ドイツの知り合いになった情報通を通して、やっと訓練とショー出陳までの全ての面倒を見ていただける人にめぐり合う事ができ、新矢氏と私で今年のSVジューガーを目指す楽しみが作れたことは、最近の一つの成果でした。

さて、もっぱら毎週末ドイツの端から端までを何百キロ走破しワイヤーダックスを5頭引き連れショー参加したり、ドイツの各地で開催されるSVランデスジューガーを見学したり、平日は、愛犬「ディーファ」と、シュッツトレーニングに通う日々が続いています。

私の一つの渡独目的は、愛犬と共にシュッツトレーニングを通い、訓練資格や種犬認定を取得すると言う事でしたので、世界のシュッツ競技会のトップに君臨している友人である益田晴夫氏の協力のおかげもあり、7月上旬にはディーファの永久種犬認定が取れそうなどころまで来ています。

当初は、ショー用犬の永久認定を取得するぐらには簡単な事と考えておりましたが、ここ最近審査も厳しくなっており、実情はそんなに簡単な事ではありませんでした。噛みのテストがメインですが、犬がうなったり、噛みが浅く離れてしまったり、吠えなかったり、辞めの号令に従わなかったり、服従が出来なかったら、即刻落第です。2年前に認定が切れてしまっている愛犬「ディーファ」は、訓練も忘れかけており、ましてや一発勝負の試験に落ちてしまうと、1年間は2度と試験を受けることすら出来ないという厳格なルールに、戸惑いを感じつつ少し緊張気味で、日ごろの積み重ねが重要と思ひ慎重に訓練に励んでいる所です。



シェパード愛好家の常識といわれているシュッツトレーニングに通い感じていることは、トレーニングは犬と飼主にとって実に楽しく有意義なもので、尚且つトレーニングに励む飼主はそれぞれに誇りと自覚を持っている事を強く感じました。奥深いシュッツトレーニングには、犬自身に考えさせる事が多く、犬に喜びを与えながら犬の精神面や体力の充実を図ると共に、且つ飼主としての自覚が向上するソースがたくさん秘められているということを実感しています。

我がビッグウッド社の、ドイツ進出のための開拓という大切な使命を忘れかけ、仕事がおろそかになるほどシュッツトレーニングに、はまっています。

ドイツ私記③

ドイツに来て感じることは、やはりシェパードにしてもダックスにしてもさすが本場ならではと言う歴史の深さを感じています。

ショーに参加したり愛犬家の自宅を訪問する度に、もちろん良い犬をたくさん見れるということもありますが、それ以上にその環境の素晴らしさや、愛犬家自身のそれぞれの犬に対する考え方等、どの角度から見てもショーの席次だけではない愛犬家としての自覚と誇りに満ち溢れているという印象を強く受けます。

ドイツでは、オーナーもしくはその家族自らがトレーニングや養育管理ならびにショーのハンドラーを行う事が当たり前で、その当たり前のことを前提に、学び研究し極めていく姿を窺うことができます。1頭もしくは多くても数頭に絞り込み愛犬家自身が自ら手塩にかけ丹精を込め養育管理やトレーニングを行い、その日常管理に加えショーへの取り組みを見ても、オーナーや繁殖者、トレーナーならびに審査員や周囲の人にプレゼンテーション出来る人物等で確固たるチーム結成がされており、皆で戦略を練り同じ目標を持ちながら役割分担をはっきりさせ、それぞれの役目でそれぞれがそれぞれの犬を最大限に高め成果をあげるべく努力をしている姿を見ると、その肌理(きめ)の細かさやチームとしての友情や仲間意識で、学び合い極め合う姿勢に奥深さや視野の広さ並びに愛犬家としての自覚や楽しさを感じる事ができます。

現在私は、幸いにも良い仲間にもめぐり合う事ができ、ドイツで購入した「PERLE」を始め新矢氏オーナーの自家繁殖犬でSVジュー



出場に向け、自分に不足している点などを、ご指導を仰ぎながら養育管理やトレーニングに努めているところです。そしてショーへ出場するからには、やはり出来るだけ良い成果を上げる方法を仲間と共に模索し、成果を出せる技術と組織を形成し、友情や仲間意識を持ちながら楽しく進めて行きたいと考えています。

本場ならではの環境に身を置くことが出来、現地の仲間にも恵まれ本場ならではの情報もたくさん入ってくる中、驚いた事実もあります。それは犬の譲渡情報が数多くひっきりなしに入ってくる事でした。例えば、「購入を決めたSVジューガー若牝SG19「PERLE vom TURKENKOPF」を始め、SVジューガー成牝VA4「PAKROS d ULMENTAL」、SVジューガー成牝V11「XARO d ULMENTAL」、SVジューガー成牝VA7「XARA vom AGILOLFINGER」、SVジューガー成牝V14「JULLI von AURELIUS」、SVジューガーV52「SARA dell ALTOPINO」、SVジューガー未牝SG12「VALTY vom AURELIUS」、SVジューガー若牝SG1「VEGAS du HAUTMANSARD」、SVジューガー成牝VA5「ZAMP vom THERMODOS」の50%オーナー等、数え切れないほどの譲渡情報が飛び交っている現状には実に驚きました。

日本の第一人者である柿木氏に相談をしながら慎重に情報を整理してきましたが、とにかく犬を見極める眼力や人間関係を形成する力がないと、騙されたり足元を見られたりすることも現状のようです。

私が現在まで触れた感想では4種類の人種がいます。例えば、一番目のタイプは、売主から一切犬の価格を提示せず、買手がつける値段で犬の価値を解っているかどうかの判断をし、売主が納得する金額を提示できる人にしか売らない人・・・比較的高価な犬の持ち主であり価格も高く目的も明確である。

2番目のタイプは、仲間作りの一環としてオーナー的存在や繁殖者としての協力者として犬を分譲する人・・・比較的良好な犬の持ち主で誠実な人である。

3番目のタイプは、自分に必要としない犬を売付け様とする人・・・良い犬であろうか悪い犬であろうかあまり付き合いたくない人である。

4番目のタイプは、犬の価値が全く解からず、ただお金だけが欲しい人・・・付き合う価値が無い人。

余談ですが全般的に受ける印象は、とにかく



外国人に対しては犬の価格が自動的に高くなってしまっている事を感じます。私的には、2番目の人と親しくなりその人伝わりの情報が、比較的犬の価値と金額が正しいと思っておりますし、色素や股関節、肘関節ならびに訓練性能などの問題についても隠し事が無いように思います。

余談話はさておき、何も解らないままドイツのダックス仲間を頼り渡独し、自家繁殖犬(日本産)での本場ドイツへの挑戦を掲げ、ダックスでは良い仲間のお蔭で思った以上の成果を挙げる事が出来大変満足しております。しかし、シェパードの養育管理とトレーニングを極める事ならびにショーの成果やその為のチーム作りは、これから先の長い長い大きな課題だと種を引き締めている所です。

これからの私の夢もだんだん明確になりつつあります。なるべく早く日本人とドイツ人の合同チームを幾通りか形成し、誰でも気軽に参加でき本場で楽しみ合える環境を整える事に専念し、皆で喜び合える時が来る事を目指します。そして最終的にはダックスのように日本の犬舎号で日の丸を掲げ、本場ドイツで注目される時が来る事を夢見ております。

最後になりましたが、私に賛同し協力してくれる家族や社員ならびに多くの友人に心より深く感謝申し上げます。そして、3回に渡り勝手な個人的主観を述べさせていただきまして事について心からお詫びと御礼を申し上げます。記事として取り上げていただいた犬界新聞社の小野瀬様、ならびに目を通していただいた読者の皆様にも心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

